

TARGET BIRDGOLF

JAPAN TARGET-BIRDGOLF ASSOCIATION

競技規則



2019年度版

ターゲット・バードゴルフ競技規則

【第1章】コース

第1条 競技は、一般社団法人日本ターゲット・バードゴルフ協会（以下日本TBG協会という）の認定コースで行う。認定基準は、以下の通りとする。

	認定常設コース	仮設コース
ホール数	9ホール又は18ホールを基準とする	常設コースに準ずる
ホール距離	①パー3（ショートホール）40m未満 ②パー4（ミドルホール）40m～70m未満 ③パー5（ロングホール）70m～90m	常設コースに準ずる
パー総数	9ホールのパー総数は36とし、その内訳は、パー3が2ホール、パー4が5ホール、パー5が2ホールとする	常設コースに準ずる
面積	9ホールにつき約7,000㎡とする	常設コースに準ずる
ティーインググラウンド	台地状（3m四方）もしくは、周りのフェアウェイと区画線、柵等ではっきり区別をし、ティーマークを設置する	使用するグラウンドに準ずる
フェアウェイ	芝とする。幅は、4m以内とする	使用するグラウンドに準ずる
境界線	コースは、溝の中に砂を入れて区分するか煉瓦で区分するか、ロープを用いて明確に区分する	使用するグラウンドに準ずる
バンカー/ウォーターハザード	9ホールにつきいずれか2種類以上設置することが望ましい	常設コースに準ずる
標識	危険防止のための注意書き及び距離の表示等プレーに必要な表示をする	常設コースに準ずる
公認指導者	9ホールにつき1名以上	常設コースに準ずる
主な用途	日本TBG協会認定大会、講習会の開催	常設コースに準ずる

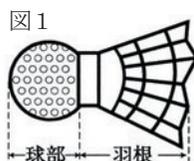
【第2章】用具

第2条 ボール（図1）

ボールは、ゴルフボール（球部）のようなものにバドミントンに似た羽根がついたものをボールとする。合成樹脂で、ボールと羽根のジョイントには、ビスを用いる。

全長105mm、ボールの直径約40mm、羽根の直径約73mm以下、重量30g以下とする。

羽根は飛距離を抑える働きをし、羽根に付いたヒレは方向性の安定と転がりを抑制している。ルールにおいてはボールの特殊性により、球部と羽根を区別することがある。



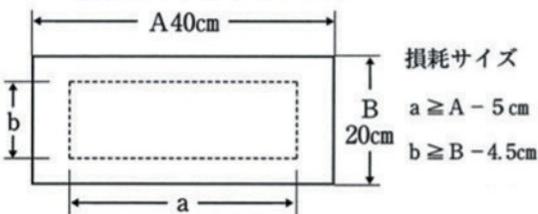
第3条 クラブ

TBGクラブ、又は一般ゴルフ用ウェッジクラブ1本のみを用いる。クラブヘッドの改造は認められない。

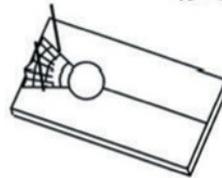
第4条 ショットマット (図2)

1. ゴルフ練習用ショットマットを使用するが、ショットマットの全体の厚みは一定で2.5cm以下でなければならない。競技会においては、センターに白線が入っているものを使用しなければならない。
2. ショットマットを使用する時は、地面に平らに置かなければならないし、マットの裏側を使用してはならない。
3. ショットマットを改造してはならない(曲げたり、把手を付けたり、裏面に貼り物をしてはならない)。
4. ストッパーは認められた物を使用することができる。
ストッパーは常時付けたままにしてもよい。

図2 ①ショットマットのサイズ



②ストッパーの例 (参考)



第5条 ホール (図3)

上部のホールをアドバンテージホール、下部のホールをセカンドホールと呼ぶ。アドバンテージホールは、パラソル(傘)を逆さに立てた形で、ステンレス枠にネットを張った固定式と傘のようにたためる折りたたみ式があり、直径が約110cmとする。セカンドホールは、合成樹脂のフープで直径が約86cm。

アドバンテージホールは、ステンレス枠にネットを張ったもので、先端を地面に打ち込んで使用する。地面に打ち込めない場合は、自立式のホール台座を使用する。セカンドホールは合成樹脂製のフープとする。

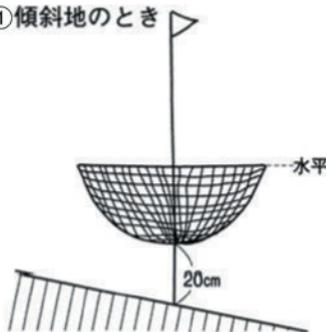
アドバンテージホールの設置は、差込棒を地面に打ち込むか、自立式のホール台座を使用するかがある。傾斜地では、地面よりアドバンテージホールのネットの底部から20cm、地面が平らなところでは、アドバンテージホールステンレスの枠のところから地面まで50cmとし、水平に設置する。

プレーヤーは、アドバンテージホール並びにセカンドホールに故意にふれてはならない。

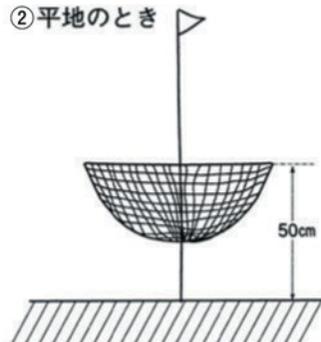
(ショットしたときにクラブがホールに触れた場合は、故意と認めない)

日本TBG協会が認定したコース及び認定大会においては、固定式のアドバンテージホールが望ましい。ホールは日本TBG協会が認定したものを使用する。

図3 ①傾斜地するとき



②平地するとき



【第3章】競技方法

第6条 人数

通常4人一組でプレーする。

第7条 競技の種類

1. ストロークプレー

- ①スクラッチ競技...グロススコアで順位を決める競技。
- ②ハンデキャップ競技...グロススコアからハンデキャップを引いたスコアで順位を決める競技。

2. マッチプレー

- ① 各ホール毎に勝敗を決める。
- ② ハンデキャップを導入することもある。

3. 2人組戦 ワンボールフォアサムとツーボールフォアサムがある

- ① ワンボールフォアサム 最初のティーショットは2人で打ち、選んだボールは最後まで交互に打つことをいう。
- ② ツーボールフォアサム ティーショットに限り全員で打ち、各組の良い方のボールを選び、その後は交互にプレーする。

4. フォアボール

2人対2人が各自のボールをプレーして対抗し、各サイドのベストスコアによって勝敗を競う。

第8条 進め方

1. スタートホールでのティーショット（第1打）は、くじ引き、じゃんけん、コインのトス等によって順番を決める。
2. ボールがインプレーのときは、ホールから最も遠いボールを先にプレーしなければならない【遠球先打】。
3. 2ホール目以降のティーショットの順番は、前のホールで最も少ないスコアのプレーヤーからプレーし、以下順番にプレーする。
もし前のホールで2人以上のプレーヤーが同じスコアであった場合は、前のホールのティーショットの順番に従う。
4. プレーヤーが、プレーの順番をうっかり間違えてプレーしても罰はなくボールが止まっているところから次のプレーをする。

【第4章】競技規則

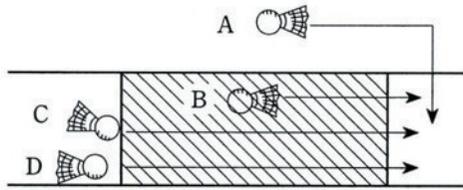
第9条 ストローク

1. ボールを正しく打ち、またボールを打つ意志でクラブを前方に動かすことを、ストロークという。つまり、ボールを打つ意志でクラブを振れば空振りであっても1ストロークと数える。ただし、クラブヘッドがボールに触れる前にスイングを中止したときは、ストロークを行わなかったものとみなす。
2. ボールは、クラブヘッドで正しく打たなければならない。押し出したり、かき寄せたり、あるいはすくい上げてはならない。以上の反則があったときそのストロークが1打、そして、2罰打が与えられ合計3打として数える。

第10条 ホールイン

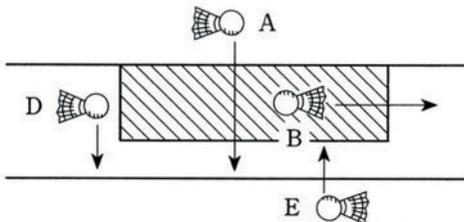
1. ホールインとは、ボールの羽根を除く球部で決まる。
2. ホールインの判定は、ボールを真上から見下ろして行う。
3. アドバンテージホールは、ステンレスの枠内にボールが入るか、ステンレス製の枠に球部が接していればホールインとする。
4. セカンドホールは、球部の真上から見てフープに球部が接していればホールインとみなすが、ストローク数に1打加える。
5. アドバンテージホールの判定と処理（図4）
 - (1) 旗あるいは旗竿に引っ掛っていればホールインとみなす。Ⓐ
 - (2) ボールがアドバンテージホールの外側に引っかかったとき、球部がアドバンテージホール外で羽根がアドバンテージホールの内側に引っかかったとき、セカンドホールに入ったものとみなす。ⒷⒸ

図6 ①



- ・ AはOBのとき
- ・ Bは池に入ったとき
- ・ Cは池のロープに触れているとき
- ・ Dは池のロープに触れていないがマットをセットしてボールを置いたとき球部が池の中にあるとき（罰なし）

②

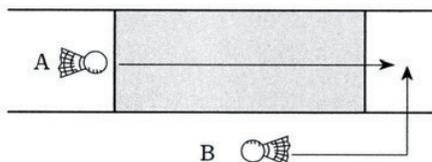


- ・ A、EはOBのとき
- ・ Bは池に入ったとき
- ・ Dはショットマットをセットしたとき球部が池の中に入ってしまうとき

第13条 バンカー（図7）

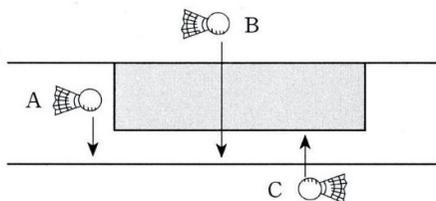
1. バンカー内では、ショットマットは使用できない。
2. バンカー内でクラブを砂に接触させた場合、1罰打となる。
3. バンカー内のボールの向きを変える場合は、球部を中心にして羽根の向きのみを変える。
4. バンカー内の石、木くず、葉等は無罰で取り除くことができる。

図7 ①



- ・ Aはマットをセットすることができないとき
- ・ BはOBのとき

②



- ・ Aはマットをセットすることができないとき
- ・ B、CはOBのとき

第14条 プレース

プレースとは、ボールを拾い上げて「別の地点」に置くことをいい、規定の方法に従えばペナルティーは無い。また、動物などにより、ボールが持ち去られるなどした場合、そのボールがあった地点に別のボールを置くことができ、これもプレースという。

下記の方法に従えば、自由にプレースすることができる。このとき羽根の向きを変えてプレースしてもかまわない。

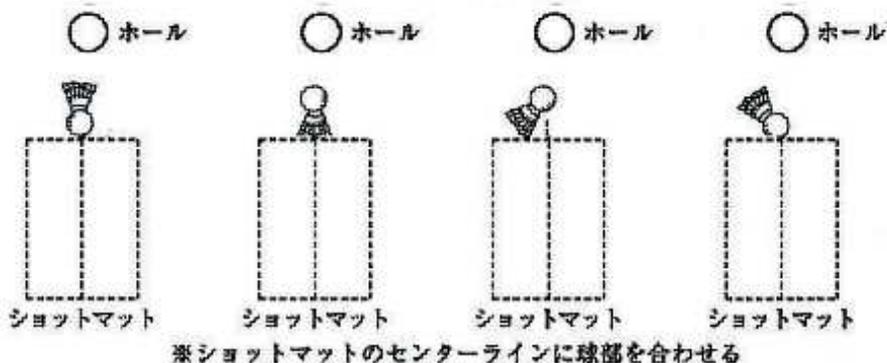
1. 打つ方向に向けてボールの真後ろにしかもショットマットの中央の白線に球部を合わせボールに接するようにショットマットを置く。
2. ボールを拾い上げる。ショットマットにボールをセットしてストロークが終わるまでショットマットを動かすことができない。
3. ショットマットの最前方にボールを置く。（羽根の部分も含む）

4. ホールに近寄らない「別の地点」におくことができる場合。
 - (1) ボールがコースラインに接した場合、プレースによりボールがコースライン外になるときは、ショットマットの中央線をフェアウェイ内に置くことができる
(ニアレストポイント)。
 - (2) バンカー等の縁でボールが止まり、ボールの直後にショットマットが置けない場合、後方にプレースできる。

第 15 条 リプレース〈マーカ―使用、(図 8)〉

リプレースとは、拾い上げた、又は動かされたボールを「もとの地点」に戻して置くことをいう。ボールを識別するため、あるいは他のプレーヤーの妨げとなるなどの理由でリプレースすべきボールを拾い上げるときは、マーカ―を使ってマークをしなければならない。但し、ボールを置くときは、もとの状態に戻す。

図 8 マーカ―の位置とショットマットの置き方



マーカ―の置き方



第 16 条 ホールアウト

1. アドバンテージホール及びセカンドホールにプレーヤー全員ボールを入れたことをホールアウトという。
2. プレーヤーはホールアウト後速やかにボールを拾い上げてホールエリアから離れなければならない。

第 17 条 誤球と誤記

1. 誤球とは、ショットを行った時を言う。
2. 誤球をしたプレーヤーは、誤球のままホールアウトし、2 罰打を付加する。
誤球をされたプレーヤーは誤球されたことを同伴競技者の了解を受け、そのままホールアウトする。(無罰打)
3. 誤球されたプレーヤーが誤りに気付かないでそのままプレーを続けホールアウトした場合 2 打罰打を加える。
4. 提出されたスコアの誤記は、プレーヤー本人とアテストしたプレーヤーに 2 罰打を加える。

第 18 条 ティーショットの位置

1. スタート時のティーショットの位置を途中で変更してはならない。
2. 指定された場所以外のところからティーショットをした場合は、正規のティーの位置まで戻り 1 罰打とし 3 打目よりティーショットを行う。(第 1 打のみ)
3. 2 打目以後にティーショット位置の誤りに気がついた場合は 2 罰打を加える。

第 19 条 ホールの間違い

定められたホール順にプレーをしない場合は 2 罰打とする。(ショットをした本人のみ)

【第 5 章】エチケットとマナー

1. ストロークを行う前に、クラブが当たる可能性のあるところに、人がいないことを確認しなければならない。
2. ストロークを行うときには、他の者は動いたり、大声で話したりしてはならない。また、ティーインググラウンドには、ティーショットする者以外は立ち入らない。
3. 前の組のプレーヤーがボールのとどく範囲外に進むまで、プレーしてはならない。
4. ホールアウト後ホールエリア内でスコアの確認・記入をしてはならない。
5. 使用するボールに印(マジックのみ)を付けておくと良い。各自のボールを色によって確認しておく。
6. 自分を有利にする行為はしない。
7. 全員がホールアウト後、ボールを拾い上げることができる。ボールを拾い上げる時は、自分のボールは自分で拾い上げること。
8. 同伴競技者全員のショットが終わるまで前へ出てはならない。
9. ジャッジは、セルフジャッジが基本であるが、異義があるとき同伴者の同意を得るか、競技委員の裁定を仰ぐ。
10. 前組との間隔をあけないようにプレーをしなければならない。

ターゲット・バードゴルフ競技規則による罰打・失格一覧表

項 目	プ レ ー 内 容
一 罰 打	<ol style="list-style-type: none"> 1. ティーショットの失敗によりボールがティーグラウンド上に残ったり、フェアウェイに届かなかった場合、ティーショットをやり直すとき。 2. ボールが コースライン外になったとき。 3. ボールが池及びハザード(バンカーを除く)に入ったとき。 4. バンカー内でクラブを砂に接触させたとき。 5. プレーヤー自身の打ったボールが身体もしくは自分の持ち物にボールが当たったとき。 (ショットマットは除く) 6. コース内の樹木、植え込み等にボールが引っかかったり、入ってショット出来ない時 (この場合は、ホール に近づかない所に、コンパス方式によりプレーをする) 7. 一打目のティーショットの位置を間違えた場合。
二 罰 打	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボールを押し出したり、かき寄せたり、すくい上げたとき。 2. 誤球をしてホールアウトしたとき。この場合誤球をしたプレーヤー、誤球をされたプレーヤーとも適用する。(誤球をされた事を同伴競技者アピールしない時) 3. 2打目以後にティーショット位置の誤りに気がついた場合。 4. 提出したスコアが間違っていたとき。(本人とアテストしたプレーヤー) 5. 定められたホール順にプレーをしない場合。(ティーショットをした本人のみ)

TARGET BIRDGOLF 競技規則

1988 年 6 月 17 日 制 定

2016 年 8 月 30 日 9 刷改定

2019 年 6 月 30 日 改定

発行所 一般社団法人 日本ターゲット・バードゴルフ協会

住 所 〒180-0023 武蔵野市境南町 3-11-11 武蔵野ヒルズ 101 号

電 話 0422-30-5290 F A X 0422-30-5291

複製禁止

JAPAN
TARGET-BIRDGOLF
ASSOCIATION



一般社団法人

日本ターゲット・バードゴルフ協会

〒180-0023

武蔵野市境南町 3-11-11 武蔵野ヒルズ 101号

TEL .0422-30-5290 FAX .0422-30-5291